

8 芸術文化の振興

伝統と現代が融合する、世界のどこにもない、文化都市を目指そう

I 2020 年とその先の未来に向けて

- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック 競技大会に向けて、都内各地で多彩な文化プログラム*を展開する。
- 多くの芸術文化拠点を持つ魅力を高めることで、更に成熟した文化都市を目指していく。
- 東京 2020 大会を契機に、世界中からアーティストが東京を訪れ、国籍や老若男女、障害の有無を問わず、あらゆる人々が共に芸術文化を創造し、日常的にアートに触れ合うなど、文化の魅力であふれる都市東京を実現する。

II 政策目標

1 文化プログラムの展開等と文化施設の機能向上

No.	政策目標	目標年次	目標値
01	文化プログラムの展開	2020 年度	東京 2020 大会に向け 全区市町村で実施
02	芸術文化拠点の魅力向上	2020 年度	上野、池袋、六本木等 5 か所以上で実施
03	都立文化施設の多言語対応	2020 年	全 7 施設で完了
04	都立文化施設の開館時間延長	2020 年	全 7 施設で実施
05	文化施設の広域共通パスの導入	2020 年	実施
06	アール・ブリュット*の普及推進	2019 年度	渋谷で拠点運営開始

III これまでの取組と課題

(文化プログラムの展開)

- 2025 年までの都の芸術文化振興における基本指針として「東京文化ビジョン」を策定し、国内外に広く発信するとともに、東京 2020 大会に向けた文化プログラムの先導的役割としてのリーディングプロジェクトを実施するなど、先駆的な文化施策を展開してきた。
- 東京 2020 大会の文化プログラムは、都民はもとより観光客や芸術家たちに開かれたものとし、規模・質ともに最高の文化プログラムを目指す必要がある。

＜東京大茶会＞

(文化政策の推進)

- 都はこれまで、東京芸術文化評議会の提言を基に、東京文化発信プロジェクトの展開やアーツカウンシル東京*の設置を通じて、幅広い芸術文化活動の支援



や人材の育成等、積極的な事業展開を図ってきた。

- 今後、東京が芸術文化の面でも世界をリードする大都市となるよう、文化的ポテンシャルの高い地域における魅力の発掘や発信力の向上を更に進める必要がある。

IV 4か年の政策展開

政策展開 1 東京 2020 大会に向けた文化プログラムの展開

様々な主体が連携・参加できる、これまでにない先駆的な文化プログラムを展開し、東京の多彩な芸術文化の魅力を国内外に発信する。

1 文化プログラムの展開

- 伝統芸能や演劇、音楽など様々な分野の芸術家が一堂に集結する「東京キャラバン」を、被災地を含めた日本各地において展開する。
- 若手からベテランまで全てのアーティスト等を対象に、公募により東京の宝を発掘し、東京 2020 大会開催年の中核的な文化プログラムを構築する。
- メディアアート等、日本が誇る先端技術と芸術文化の融合を図る作品制作に対する支援を行い、これまでにない東京発の独自コンテンツを創造・発信する。
- 多摩や島しょを含む東京と全国各地が連携し、文化プログラムを展開することでオールジャパンとしての魅力を向上させる。
- 海外の美術館や芸術団体と連携し、美術展や舞台芸術などの国際的事業を積極的に展開する。
- アーツカウンシル東京について、大会後も東京の芸術文化を支える専門機関としての機能を充実する。
- 文化プログラムや文化拠点の魅力向上に係る事業展開においては、国家戦略特区（エリアマネジメントに係る道路法の特例等）を活用し推進する。

＜東京キャラバン in 六本木
（撮影：篠山紀信）＞



政策展開 2 芸術文化による都市の魅力向上

芸術文化資源の集積や地域の個性を生かし、各地域の自治体や民間団体などと連携したまちづくりを都内各地で展開する。また、都立文化施設のサービスの向上を図るとともに、美術館・博物館において連携した取組を推進する。

1 芸術文化資源の集積を活用し、芸術文化拠点の魅力を向上

- 上野や池袋、六本木などの各地域の芸術文化資源や集客資源の特性を生かした事業を推進するとともに、地域の芸術文化資源の発信を支援する。

- 多摩地域における地域の芸術文化資源を活用した伝統文化・芸能を発信するフェスティバルを開催するほか、郷土芸能を発信する民間の取組を支援する。
- アーティストと障害者等の交流によって新たな表現を生み出す事業「TURN」など、障害者をはじめ多様な人々が参加できる事業を、多摩地域に集積する美術系大学や都内各地の福祉施設等と連携して展開する。
- 海外からの観光客が集まる浅草文化観光センター等の観光拠点において、日本の伝統文化・芸能を短時間で気軽に体験できるプログラムを実施する。
- 海外メディアや観光雑誌、著名なブロガーなどのインフルエンサーとの連携により東京の文化的魅力を発信する。

＜TURNのワークショップ(リオ)＞



＜浅草文化観光センターにおける日本舞踊体験プログラム＞



2 文化施設の機能向上と芸術文化資源の活用

- バリアフリー化や多言語対応など、あらゆる人々に開かれた都立文化施設に向けて、機能を更新する。
- ユニークメニューの推進、展示物の写真撮影機会の拡充、電子マネー決済の導入などにより都立文化施設の利便性を向上する。
- 一都三県の美術館・博物館などで連携し、広域共通パスなどにより周遊性の向上や受入環境の整備を行う。
- 国内外の劇場等と連携し、作品の共同制作や巡回公演を実施するなど、都立文化施設の発信力を一層高める。
- 隅田川に架かる著名橋や旧三河島污水処分場唧筒（ポンプ）場施設をはじめとする歴史的建造物を、東京の近代化を支えた貴重な文化遺産として保全する。

政策展開 3 あらゆる人々の創造的な芸術文化活動の支援

国籍や年齢にかかわらず、あらゆる人々が東京を舞台に創造的な芸術文化活動を展開するとともに、文化の魅力あふれる都市東京の実現に向けた取組を推進する。

1 東京を舞台とする様々な芸術文化活動の展開

- 渋谷にアール・ブリュットの展示・交流・情報発信の拠点を新たに整備するとともに、日本各地の文化施設等と連携したアール・ブリュットの巡回展等を実施する。
- 東京を舞台とした創造的な芸術文化活動や、多くの人々が気軽に参加できる芸術文化イベントの開催などを支援する。

＜都庁舎におけるアール・ブリュット美術展＞



- 子供や高齢者、障害者、外国人等に対し、芸術文化を活用した取組を行うNPO等の活動を支援する。
- 新進の若手アーティスト等を中心に多様な人材を国内外から発掘・育成するとともに、新たな芸術文化の創造の機会を提供する。

V 年次計画

	2016年度まで (見込み)	年次計画				4年後の 到達点	
		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度		
1 東京2020大会に向けた文化プログラムの展開	文化プログラムの展開	様々な担い手への拡がりに向けた連携強化	→			全区市町村で実施	
				ラグビーワールドカップ2019™や1年前イベントによる盛り上げ			
					東京2020大会に向け最高潮に		
		斬新な文化プログラムの展開	→				
		東京文化プログラム助成（民間支援の充実）	→				
2 芸術文化による都市の魅力向上	芸術文化拠点の魅力向上	上野（上野「文化の杜」）	国際的な芸術文化イベントの開催	→		5か所以上で実施	
			新構想事業の推進	→			
		池袋（東京芸術祭）	海外プロデューサー招聘等	→	総合ディレクターによる舞台芸術祭の開始		
		国内外芸術祭との連携	→				
	各地域	各地域における魅力向上策の推進	→				
	都立文化施設の機能向上	多言語対応、バリアフリー化、安全対策等の推進	→				文化施設の更なる機能向上
		電子マネー決済対応	→				
美術館・博物館における周遊性向上等に向けた取組の推進		実務担当者会議等における連携した取組の検討・推進	→		広域共通パスの導入		
3 あらゆる人々の創造的な芸術文化活動の支援	アール・ブリュットの普及啓発活動	普及啓発活動	拠点運営に向けた準備	→	拠点を中心とした普及啓発活動	渋谷で拠点運営開始	
		拠点改修準備・設計	改修・開館準備	→	拠点運営開始		

